

9 章 18 節 「神はご自身の望まれる(みこころの)ままにあわれみ、また、ご自身が望まれる(みこころの)ままに頑(かたく)なにされるのです」

9 章 19 節 「すると、あなたは私にこう言うでしょう。『なぜ、神はなおも人を責められるのですか。神のご意思(意図)にだれが逆らったというのですか』

9 章 20, 21 節 「おお人間よ、逆に、神に言い逆らうあなたは、いったい何者ですか。造られた者が造った者に言えるでしょうか、『どうして私をこのように造ったのか』などと。それとも、陶器師は権威を持っていないというのですか、同じ土のかたまりから、あるものは尊いことに用いる器に、別のものは普通の(卑しい)ことに用いるものに」

9 章 22-24 節 「それでいて、もし神が、御怒りを示し、ご自身の力を知らせようと望んでおられながら、滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって耐えておられるとしたら、しかもそれが、ご自身の豊かな栄光を知らせるためであったのなら、どうでしょう、それは栄光のためにあらかじめ備えられたあわれみの器に対してですが。

そのために神は私たちを召してくださいましたのです、ユダヤ人の中からだけでなく異邦人の中からも」

9 章 25, 26 節 「それはホセアにおいて、神が言っておられるとおりです。『わたしは呼ぶことになる、わたしの民でないものをわたしの民と、また、愛されなかった者を、愛される者と。そして、あなたがたはわたしの民ではないと、彼らに言われたその場所において、そこで彼らは生ける神の子たちと呼ばれることになる』

9 章 27-29 節 「しかしイザヤはこう叫んでいます、イスラエルについて、『たとえ、イスラエルの息子たちの数が海の砂のように多かったとしても、残りの者たち(だけ)が救われることになる。それは、語られたことを完全に、そして速やかに、主がこの地で行おうとしておられるからだ』それはまたイザヤがあらかじめ告げたとおりです。もしも、万軍の主が私たちに子孫(種)を残さなかったとしたら、私たちはゾドムのようなことでしょう。また、ゴモラと同じようにされたことでしょう」

<引用聖句>

(ローマ 2:5)「あなたの頑なで、心を改めようとしないことのゆえに、怒りを自分のために蓄えています、それは御怒りの、神の正しいさばきが現れる日に向けてのことです」

(ローマ 3:19,20)「私たちは知っています。律法が言うことはみな、律法のうちにある人たちに語られているということ。それは、すべての口がふさがれて、全世界が神に対して責任を負う(神のさばきに服する)ためです。なぜなら、律法の行いによって

は、すべての肉なる者は、神の前で義と認められないからです。律法を通しては罪の知識(意識)が生まれるからです」

(使徒 4:12)「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間には与えられていないからです」

(ローマ 3:5-7)「もし私たちの不義が神の義(真実)を明らかにするのなら…神は不義なのでしょう、その方が御怒りを下すのですが…決してそうではありません…(それが)神の栄光となるなら、どうして私は罪人として、なおもさばかれるのですか」

(ヨブ 40:2)「非難する者が全能者と争おうとするのか。神を責める者はこれに答えよ」

(イザヤ 29:16)「ああ、あなたがたは物を逆さに考えている。陶器師を粘土と同じにみなしてよいだろうか。造られた者がそれを造った者に、『彼(あなたは)は私を造らなかつた』と言えようか、陶器が陶器師に『彼にはわきまえがない』などと」

(詩篇 73:12,18,19)「見よ、これが悪しき者。彼らはいつまでも安らかで 富を増している…確かにあなたは彼らを滑りやすい所に置いておられ、彼らを滅びに突き落とされます。ああ 彼らは瞬く間に滅ぼされ、突然の恐怖で滅び失せることになります」

(Iテサロニケ 2:16)「彼らは、異邦人たちが救われるように私たちが語るのを妨げ、こうしていつも、自分たちの罪が満ちるようにしているのです。しかし、御怒りは彼らの上に臨んで極みにまで達しています」

(ローマ 2:4)「それとも、神のいつくしみと忍耐と寛容の豊かさをあなたは軽んじているのですか？神のいつくしみがあなたを回心(悔い改め)に導くことを知らないままに」

(イザヤ 10:21-23)「残りの者は立ち返る。たとえ、あなたの民イスラエルが海の砂のようであっても、その中の残りの者だけが帰って来る。壊滅は定められ、義があふれようとしている。すでに定められた全滅を、万軍の神、主は、全地のただ中で起こそうとしておられる」

(イザヤ 6:13)「そこには、なお十分の一が残るが、それさえも焼き払われる。しかし、切り倒されたテレビンや樅の木のように、それらの間に切り株が残る。この切り株こそ、聖なる裔(すえ:Seed 種)」

(イザヤ 64:8,9)「私たちは粘土で、あなたは私たちの陶器師です。私たちはみな、あなたの御手のわざです。主(ヤハウェ)よ。どうか激しく怒らないでください。いつまでも咎を覚えていないでください。どうか今、私たちがみな、あなたの民であることに目を留めてください」